

医薬保健学域 薬学類

【授与する学位】学士（薬学）

大学（大学院）の目的
金沢大学は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

学類（研究科）の教育研究上の目的
医薬保健学域は、高齢化・少子化や疾病構造の変化を背景に、日常生活の質〔Quality of Life(QOL)〕を重視した患者本位の全人的医療の提供のため、関連する医学、保健学及び薬学の分野が相互に協力して、統合的な医療教育を行い、人間性を重視し、総合的な能力を有する高度医療人及び研究者を養成することを目的とする。 薬学類は、薬学における基礎的及び専門的な知識・技術の修得はもとより、薬学が人間の生命に関わる学問であることを踏まえ、豊かな人間性と高い倫理観を兼ね備えた高度な専門職業人としての薬剤師を養成するとともに、次の世代の医療薬学教育研究者を養成することを目的とする。また、医療人としての倫理観を養い、医療の専門家としての健康と疾病に関わる基礎知識を修得するとともに、臨床現場における実践的な技能と態度、また薬物治療に起因する問題を同定・評価して解決する能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
<p>【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】</p> <p>KUGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士（薬学）の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成に関する基本的考え方】</p> <p>薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。</p> <p>1. 体系的・階層的なカリキュラム：入学後1年間は、KUGSに基づく共通教育科目と、薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく専門教育科目の導入的・基礎的科目を履修し、薬学の基本的な学問体系を理解するための土台を築く。2年次には、基礎薬学を中心とした講義・演習科目を履修して薬学の基礎を固めるとともに、実習科目により基礎的な実験技術を身につける。3年次には応用薬学、4年次には医療薬学を中心とする科目を履修し、実務実習事前学習後、薬学共用試験合格を経て、5年次に実務実習（計22週間）で臨床現場における実学としての臨床薬学を学ぶ。並行して、3年次の第2クォーター（Q2）に研究室に配属され、6年次まで卒業研究・卒業演習に取り組み（実務実習期間を除く）、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵養する。</p> <p>2. キャリアプランに応じたカリキュラム：「人材育成目標」に掲げる、①次代の薬学教育・薬学研究を担う大学教員／薬学研究者、②社会の急速な変化に対応して人類の健康増進や疾病予防・治療に貢献できる多様な薬学プロ人材、③高度な臨床力と問題解決能力を身につけた主導的薬剤師、の3つの人材養成に向けて、1年次から3年次にかけて段階的にキャリア形成科目を受講し、自身の将来・進路について早期から考える機会を持つ。また、3～4年次には自身の将来の進路に応じた専門性を身につけられるように、開講される多様な科目から選択して受講する。</p> <p>3. 早期からの研究マインド涵養と研究能力のステップアップ：1年次の研究マインド醸成科目において、研究への興味・関心を高めるとともに、研究者や研究活動に関する理解を深め、研究倫理についても学ぶ。また、1年次のGS言語科目、2年次前半の学域GS言語科目の履修を通して、英語による情報収集やコミュニケーションの基礎を学んだ後、専門教育の英語演習科目において英語での学術論文の作成や学会発表に関する基本的スキルを身につける。さらに、2～3年次の各分野の実習科目やラボローテーション、3年次第2クォーター（Q2）からの配属研究室における課題研究への取り組みにより、研究能力を段階的に身につける。</p>	<p>【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】</p> <p>薬学類は、人類が抱える健康や医療に関わる諸課題の解決に挑戦し、持続可能社会の実現に貢献する多様な「薬（くすり）専門人」の養成を基本理念とし、以下のような人材の養成を目指します。第一に、次代の薬学教育・薬学研究を担う、博士（薬学）の学位と薬剤師資格を併せ持つ「大学教員」、がん・生活習慣病・認知症・感染症等の主要疾患から難治性の希少疾患まで、革新的な医薬品の創出に取り組む「薬学研究者」等、薬学高度専門人材の養成を本学類の使命として特に重視します。第二に、超高齢社会、超過疎化、情報通信技術革新、国際化など、時代の急速な変化に対応して、人類の健康増進や疾病予防・治療に貢献できる多様な「薬学プロ人材」を養成します。第三に、薬学の知識のみならず多角的な知識・経験に基づいて物事を俯瞰でき、問題解決能力を身につけた「主導的薬剤師」を養成します。</p> <p>一般選抜の入学者は、基礎・専門科目やキャリア形成科目群の学修を通して、自らの適性と使命を見極めた上で進路を決定していく教育システムを取っていますが、中でも本学類では大学院博士課程（4年制）への進学を強く推奨します。薬学類・高大院接続入試の入学者には、大学院博士課程修了までの一貫した教育を導入しています。</p>
<p>【学生が身に付けるべき資質・能力】</p> <p>学修成果</p> <p>1.倫理・使命・責任を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学高度専門人材が有するべき使命と責務を理解する。 ・生命の尊厳への深い認識を基盤とし医療、研究に関する高い使命感、責任感、倫理観をもつ。 <p>2.教育者・研究者レベルの薬の専門家を目指すために必須の基本的知識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学基礎科目について基本的知識を幅広く有し、自然科学系の学問の相互関連性や重要性を理解している。 ・健康と疾病に関わる基礎知識を有し、これらに影響を及ぼす因子について理解している。 ・薬物の作用と治療に関する専門知識を有し、薬物治療に起因する問題を認識・評価できる。 ・薬の専門家として臨床現場における基本的な技能と態度を有する。 <p>3.専門知識に裏付けられた論理性と応用力をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。 ・専門的知識を活用した論理的考察に基づいて、基礎薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。 ・抽出された基礎薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す意欲とそれに取り組むための応用力をもつ。 ・自らの専門的能力を高めるために必要な自己研鑽を主体的に継続することができる。 <p>4.薬専門家として必要な表現力とコミュニケーション力を有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する背景、問題点、解決のための方法などに関する自身の考えを明確にまとめられる。 ・適切な手段と資料を用いて自分の考えを他者に伝えることができる（プレゼンテーション力等）。 ・他者と論理的に議論することができる。 ・課題の解決に向けて他者と協力して対応することができる。 <p>5.将来の目標を設定し、それに必要な多様な専門性の基礎を身につけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学分野における活躍の場の多様性と、それに向けて修得すべき知識・技能を理解している。 ・広い視野で自身のキャリアプランを柔軟に立て、その実現に向けたキャリアパスの策定と努力をすることができる。 ・次世代を担う人材を養成する意欲と態度を有する。 	<p>【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 「倫理・使命・責任を知る」を達成するために、薬学高度専門人材が有するべき使命と責務を理解するための共通教育導入科目、学域GS科目および生命・医療倫理に関する専門講義科目等を配置する。</p> <p>(2) 「教育者・研究者レベルの薬の専門家を目指すために必須の基本的知識をもつ」を達成するために、専門基礎科目を含む生物系、化学系、医療系の専門講義・演習科目、基礎的実験手法に関する実習科目および医療現場における基本的な技能・態度を身につけるための実務実習関連科目等を配置する。</p> <p>(3) 「専門知識に裏付けられた論理性と応用力をもつ」を達成するために、英語による情報収集・分析に関する学域GS言語科目および研究室配属後に実施する卒業研究に関連した演習・実習科目等を配置する。</p> <p>(4) 「薬専門家として必要な表現力とコミュニケーション力を有する」を達成するために、プレゼンテーションスキルに関する学域GS科目、コミュニケーション力を培う実務実習関連科目および卒業研究発表に関連した演習・実習科目等を配置する。</p> <p>(5) 「将来の目標を設定し、それに必要な多様な専門性の基礎を身につけている」を達成するために、キャリア形成・キャリアプランに関わる専門講義科目および低学年生の指導に関わる演習科目等を配置する。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 薬学高度専門人材としての使命・責任、薬学基礎・専門知識およびキャリア形成・キャリアプランに関わる知識は講義および演習科目により学修する。</p> <p>(2) 基礎的実験手法、薬学専門人・教育・研究者として必要な情報収集・分析力、コミュニケーション力、およびプレゼンテーションスキル等は演習、実習科目、実務実習関連科目および卒業研究等により学修する。</p> <p>【学修成果の評価】</p> <p>1. 各授業科目の評価は、それぞれのシラバスに記載の方法により評価する。</p> <p>2. 「実務実習I-IV」および「薬学研究I-IV」「薬学演習I-IV」はルーブリックにより評価し、これらの学修成果に関する総合的な評価は「実務実習最終報告会」および「薬学研究IV」における論文審査と口述試験により実施する。</p> <p>3. ディプロマ・ポリシーに掲げる5つの資質・能力はルーブリックにより評価し、卒業判定は単位修得状況を基盤としつつ、総合的評価に基づいて実施する。</p>	<p>【求める人材】</p> <p>薬学類共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な基礎学力を備えている人 ・健康や医療に関する諸課題に挑戦し、持続可能社会の実現に貢献したい人 ・国内外の大学において、健康増進や医療の進歩につながる学術研究を推進するとともに、次代の薬学教育を担う大学教員を目指す人 ・国内外の研究機関において、革新的な医薬品の創出に資する先進的な基礎研究に携わる薬学研究者を目指す人 ・薬剤師資格を持ち、他の専門性も身に付けた「薬学プロ人材」として、国内外の幅広い健康・医療分野で活躍することを目指す人 ・高いレベルの臨床能力と研究能力を有し、医師、看護師等の医療従事者と連携しながら、患者を主体とした質の高い医療を提供するとともに、薬剤師を統率する主導的薬剤師（基幹病院の薬剤部長等）を目指す人 <p>薬学類・高大院接続入試</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記に加えて、薬学や健康・医療に関連する分野を深く主体的に学ぶことに意欲が高く、大学院医薬保健学総合研究科・薬学専攻博士課程（4年制）まで進学し、将来、国公立・私立大学の薬学関連の教員・研究者として、世界をリードする最先端研究を行いながら、次代の人材育成に積極的に取り組むことを目指す人 <p>【選抜の基本方針】</p> <p>■一般選抜</p> <p>高等学校での高いレベルの基礎学力と、特に理数英科目における秀でた学力を身につけた人材を選抜します。</p> <p>■薬学類・高大院接続入試</p> <p>知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度について評価し、特に以下の（1）～（4）を重視します。（1）は書類審査及び大学入学共通テストの得点、（2）～（4）は書類審査、小論文及び口述試験で評価を行い、薬学類・高大院接続入試で求める人材であるかどうか、総合的に判断します。</p> <p>（1）必要な基礎学力を備えているか</p> <p>（2）将来への目的意識が明確で、そこへ向かう意欲・資質を有するか</p> <p>（3）本質を理解しようとする探究心や洞察力を持ち、自主的・主体的に問題を見出して解決することに積極的か</p> <p>（4）本学における博士課程までの一貫した学修を強く希望しているか</p> <p>■帰国生徒選抜</p> <p>授業を理解するための高い学力を個別試験により、素質・適性・学力を口述試験により評価します。</p> <p>■国際バカロレア入試 素質・適性・高いレベルの基礎学力、特に理数科目における秀でた学力ならびに日本語能力を口述試験により評価します。</p> <p>■私費外国人留学生入試</p> <p>授業を理解するための高い学力を個別試験により、素質・適性・学力ならびに日本語能力を口述試験により評価します。</p> <p>【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】</p> <p>高等学校で履修する科目（大学入学共通テストで課している科目）について、しっかり理解できていることを求めます。特に、理数科目と英語の高い基礎学力と理解力が必須です。また、人類が抱える健康や医療に関わる諸課題について、日頃から意識と関心を持つことを望みます。</p>